

人

抱いて死ねる句ができますかしら

北村ミツ子 寺地

「たたみ拭く身にひびく潮まつ
青に」——昭和四十四年度新潟県
県民芸術祭で最高位の芸術祭賞を
受けた俳句である。作者は北村ミ
ツ子。二十代の受賞で異
例といわれた。審査評は
「感覚の新鮮さを見るべ
きものがあり、視覚、聴
覚だけでなく、ほとんど
靈感ともいふべき全身
的な把握力がある(略)」。

現在、北村さんは寺地
にお住まいの主婦である。
俳句を創り続けて二十余
年になり、作品を同人誌
に発表する。現代俳句協
会に所属し県俳句作家協
会賞の審査も務める。し
かし、北村さんが俳人だ
と知っている人は少ない。

「恥ずかしいものです
から」、広報で紹介されるのも困
るんです。ほんとうにわたしひ
とりで創り出していけばそれでよ
いと思っておりますから」と下を
向く北村さんなのである。
言葉を選びながら言う。「俳句
は生活者の文芸だと思えます。優
雅さや余裕から生まれる句もあり
ますが、真剣に生きていないとい
い句はできない気がします。だか
ら、いい句を創ろうとすればする

ほどできなくなつてしまします。
素直にものごとを見ていきたい
とも言う。ときに画筆も執る。絵
をかきことは見ることはないか
と思ひます。そんなところが俳句

にイコールしているみたいで、絵
も好きなんでしょうね。きつと」
といつて沈黙される。
しばらくして口を開く。「少し
気取つた言い方になりますけれど



自宅の庭で—6月24日撮影—

ほんの一冊

モモ
(岩波書店)
ミヒユエル・エンデ
(大島かおり訳)

モモとは浮浪児の
女の子の名前です。
この主人公モモが、人間たちが盗まれた
時間を時間泥棒から取り返してくれる物
語です。何度読んでも引き込まれてしま
う展開のおもしろさもさることながら、
この作品を通して迫ってくる問題意識は、
現代社会に対する痛烈な批判です。時間
に追われ生活する人にとっては考えさせ
られます。本当の豊かさとは、文明とは、
教育とは、何なのかを問いかけてきます。
児童文学ですので読みやすく、年齢を
問わず、忘れてはいけない大切なものを
心に残してくれます。読書の暇がない
人、にぜひお勧めします。(紹介者:中山佳奈恵)

も、わたしの俳句に取り組み気持
ちは、それぞれの場で真剣に生き
ておられるかたがたと姿勢は同じ
だと思っております。でも、自分
で納得できる句はなかなか創れな
いんです。いつかは抱いて死ねる
句ができますかしら」
北村さんから愛着を持つている
句を選んでもらった。
天に声あふるときは雪とならむ
東風吹きぬく後方白く葦は鳴り
包帯解く夜体内に鶴降りたち
雪の夜は日数折る姫きて
河原にてかげろうの夫をみている
なお、雅号は北村美都子と書く。
「少女趣味でしょう」と初めて口
元をゆるめた。

きたむらみつプロフィール

- ▼所属団体・結社：現代俳句協会
- ▼新潟県俳句作家協会・海峽・海程
- ▼主な受賞：新潟県芸術祭 祭賞
- ▼新潟県俳句作家協会賞・海峽賞
- ▼その他：新潟県俳句作家協会賞書
- 査員 海程全国編集委員

〈人の動き〉		[前年比]	
5月末日現在	(前月比)	(前月比)	377
人口	22,180 (+5)	(+)	160
男	10,879 (±0)	(+)	177
女	11,301 (+5)	(+)	62
世帯	5,772 (+4)	(+)	
5月1日~末日	転入 63		
出生	23	転出	70
婚姻	24		
死亡	10		

【来月号の表紙】
町に住む生物
を紹介してみたいなと思っ
ています。昆虫、鳥、魚などの生息地や
魚拓やお持ちのかたはご連絡ください。
魚拓や昆虫の標本や押し花なども大歓迎
です。また、テーマには関係なくとも、
ご意見をお持ちのかたは連絡ください。

【今月号の表紙】
今月号では小学生から年代を追ってこ
登場していただいた。立仏小の六人は子
供のままだったと言う。大きくなって
も子供の心を忘れないでいればらびな
大人になれるだろう。「これら自分が
を試すとき」と渡辺君。高校、二十代前
半の十年は何をやっても不思議ではない
のである。頑張つてほしい。渡辺さんは
「蒲原野に沈む夕陽が好きだった。今
は高速と新幹線が夕陽をまぼろし。夕陽
を見るのも不自由な時代なのかもしれな
い。松井さんはもうすぐ第二子が誕生す
る。子供たちの代は商売がえかな...」
そうだろうか。白井さんは女子ソフトホ
ールチームのキャプテンでも白井綾子は
白井綾子という看板を掲げたい。二十
一世紀に潤一郎ちゃん高校生にな
る。今よりきつといい世の中じゃない
ねえ、蛇原さん。人間は生きても百年ぐ
らいはだ、必ずだれかが後を継いでい
るはずなのだ。

